

次期「京都市都市計画マスタープラン」素案に対する市民意見募集の結果

1 市民意見募集の概要

(1) 募集期間

令和8年4月24日（金）から5月31日（日）まで

(2) 周知方法

- ・市民しんぶん全市版（令和8年5月1日号）への掲載
- ・市民意見募集冊子について、市民しんぶん全市版（令和8年5月1日号）との同時配送による各戸回覧を実施
- ・市民意見募集冊子の配布（市役所案内所、情報公開コーナー、各区役所・支所、市立図書館、京都市景観・まちづくりセンター等）
- ・ホームページ（京都市情報館）、公式SNS等への掲載

2 意見募集結果

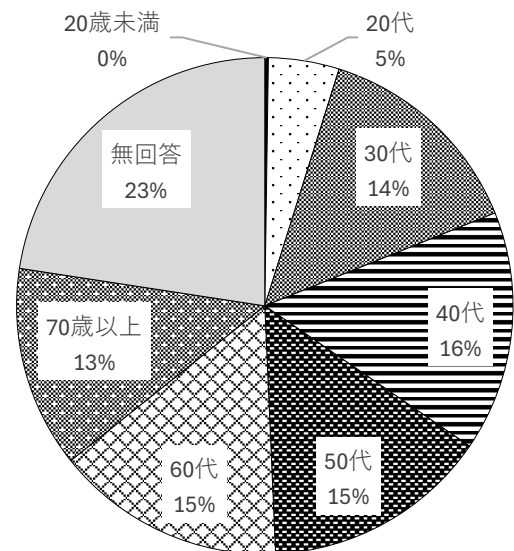
(1) 意見書数及び意見数

意見書数：436通 意見数：1,641件

(2) 御意見をいただいた方の属性

ア 年齢

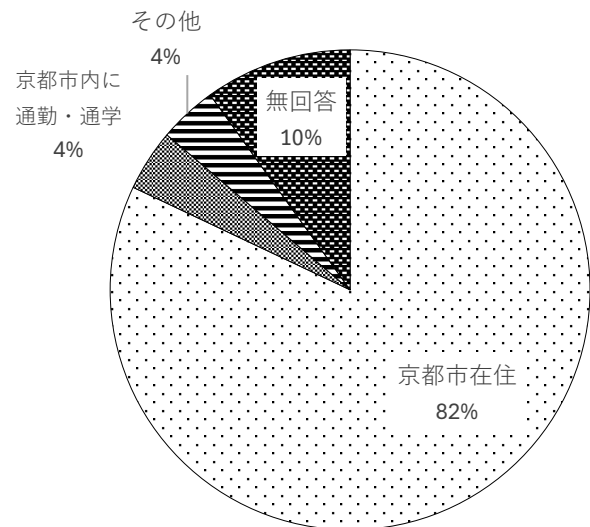
区分	通数	割合(%)
20歳未満	1	0
20代	20	5
30代	61	14
40代	68	16
50代	64	15
60代	65	15
70歳以上	57	13
無回答	100	23
合計	436	100



※ 割合は、小数点以下を四捨五入しているため、合計が100にならない場合がある。

イ お住まい等

区分	通数	割合(%)
京都市在住	3 5 6	8 2
京都市内に通勤・通学 (市外在住)	1 8	4
その他	1 7	4
無回答	4 5	1 0
合計	4 3 6	1 0 0



(3) 御意見の内訳

項 目	意見数
① 素案全般について	6 0
② 「第1章 都市の将来像」について	2 7 9
③ 「第2章 テーマ別方針」について	4 2 8
④ 「第3章 エリア別指針」について	7 0 7
全般	2 0 2
北部方面	1 4 4
都心部方面	1 3 1
東部方面	5 1
南部方面	6 3
西部方面	1 1 6
⑤ 「第4章 実現方策」について	7 8
⑥ その他	8 9
合 計	1, 6 4 1

(4) 主な御意見の内容と御意見に対する本市の考え方

① 素案全般について（60件）

皆様の主な御意見（要旨）	件数	御意見に対する本市の考え方
・ 2050年に向けて「こういうまちであり続けたい」というビジョンが伝わり、時間をかけて作成されたものだと感じた。 ・ よくまとめられていると思う。マスタープラン作成に当たり、京のまちを自らの足で歩いたことによる発見や気づきをこれからのまちづくり、くらしづくり、ひとづくりに活かしてほしい。 ・ 課題認識や基本姿勢は一定理解できる方向性だが、これらの理念が今後の都市づくりにどのように反映されていくのかについては、やや抽象的に感じられる。 ・ 理念の実現には、現場の実態を踏まえた具体的かつ実効性のある施策が不可欠。京都が「住み続けられる都市」であり続けるために、本計画がより実効性の高いものとなることを期待する。 など	60	次期都市計画マスタープラン素案（以下「本プラン」という。）については、令和7年に策定された市政の基本方針である「京都基本構想」が示す「わたしたち京都市民がめざすまち」を都市計画の観点から具体化する、長期的視点に立った都市づくりの将来ビジョンです。また、本プランでは、市内各エリアのまちの特性「まち柄」をいかした個性あふれる魅力的なまちづくりを進めるため、各エリアのまち柄と将来像の記載を大幅に充実しました。 都市の将来像の実現に向けた具体的な施策等については、市民や事業者をはじめとする多様な主体と協働しながら、「新京都戦略」や各分野別の計画とも連携し、着実に進めてまいります。

② 「第1章 都市の将来像」について（279件）

※ 表中のページ番号は、市民意見募集冊子の該当箇所を示しています。（以下、同じ。）

皆様の主な御意見（要旨）	件数	御意見に対する本市の考え方
「都市計画の理念」に関すること（p.3）	11	
- 未来もまた、いつかは歴史の一部になるという強い自覚を持つ意識改革が必要。次世代に対して、単に過去のものを残すことだけが歴史を守ることではない。現代の私たちが、2050年という未来に向けて、新たな価値を創造する「飛躍」の歴史を刻むことこそが、真の継承に繋がると考える。 - 規制ばかりや、開発ばかりにならず、時代の状況やまち柄に合わせて柔軟に変えていってほしい。景観は京都の大切な資本であり、将来世代に引き継いでいくことはとても重要だが、足元の経済が不安定では持続可能でない。色々な意見は当然あるだろうが、バランスをとって現実的に対応してほしい。 - 都市が成長し活力や賑わいのある、かつ関西や日本をリードする都市であることが必要。 - 今回の計画は、エリア別指針が大幅に拡充され、「ラーメン街道」や「山科義士まつり」といった市民感覚で分かりやすい記述もあって大変いい計画だと思っているが、難解な表現を用いているのが残念。もっと一般の市民にもわかりやすい表現としてほしい。 など		本プランは、京都基本構想に示す京都の将来像を都市計画の観点から具体化する、長期的視点に立った都市づくりの将来ビジョンです。 京都は、平安京建都以来、1200年以上もの間、守るべきものは守りつつ、ときには異なる文化や新たな技術も積極的に取り入れながらたくましく乗り越え、時代に応じ常に個性のある「まち」を築いてきた、たゆまぬ「継承」と「挑戦」、そして「飛躍」の歴史があります。 これら、京都の誇りある歴史を受け継ぎ、伝統と革新、まちと自然、そして多様な文化など、ともすれば対立的に捉えられやすい事柄の調和あるいは融合を図りながら、未来に向けて京都のまちが世界の中で確かな存在感を持ち続けられる都市づくりに挑んでまいります。 京都基本構想は、京都のまちの羅針盤として、京都市とわたしたち京都市民の今後四半世紀の在り方を展望するものであり、長い歴史の中で大切に育み、伝え遺してきた価値観を示しています。そのため、理念的な内容であるとともに、京都の思想・価値観を示すためにふさわしい表現を用いております。第1章については、この京都基本構想の理念をしっかりと伝えるため、構想と同様の表現を使用しています。一方、第3章についてはより身近に感じていただけるよう、表現の工夫をしております。
「都市計画に関する基本的な考え方」に関すること（p.3～5）	124	
【守る×伸ばす（メリハリ）】 - 短期的な利便性や経済性だけでなく、100年後も京都が京都であり続けるための景観形成と土地利用のあり方を重視してほしい。 - 豊かな暮らし・文化、景観などを守っていくためにも、経済的豊かさがベースとして必要であり、そのためには都市計画もメリハリが必要である。 - 人口的には「市街地の規模は拡大しない」なのかも知れないが、産業の視点では、AIやIoTの成長は凄く、産業基盤の成長のための「市街地規模の拡大」はあり得るのでは。 など		緑深い山々や美しい川の流れをはじめとする豊かな自然、京都ならではのまちの景観を大切にしながら、本市が今後も発展を続けられるよう、守るところは守り、伸ばすところは伸ばす、バランスに配慮したまちづくりを進めてまいります。 また、人口動向を踏まえ、市街地の規模は拡大しないことを基本としますが、市街化調整区域では、既存集落をはじめとする地域の定住人口の確保や、産業用地を維持・創出するなど、地域の将来像の実現にふさわしい土地利用の誘導を図ってまいります。

【まち柄×アップデート】 ・ 「まち柄」とは行政が定めるものではなく、そこに住まう住民たちが議論して決めていくものであり、一方的にまち柄を与えることには違和感がある。 ・ 職住近接を追求することは一つの理想だが、それによって公共交通の需要が減少すれば、交通局の経営を圧迫し、将来的なインフラ維持が困難になる恐れがある。都市全体の持続可能性の観点から、単なる近接ではなく、広域的な移動を支える公共交通とのバランスを慎重に検討することを期待する。 ・ スクラップ・アンド・ビルドの時代は終わらせましょう。これからは、いまある建物をリフォームする、リユースすることに主眼を置いたまちづくりをするべき。 ・ スクラップ・アンド・ビルドを悪者にしすぎ。もちろん改修も良い面は多くあるが、例えばオフィス天井高など、既存改修では実現できない空間を作る場合など、大胆な変化が必要な場合には、スクラップ・アンド・ビルドも必要。 など		「自分たちのまちは自分たちでつくる」といった、住民自治の高い志が、市内各地域の個性あふれる「まち柄」を形作ってきました。このまち柄をいかしながら、今後もこうしたまちの在りようが受け継がれ、また更なる発展が図られるように取り組んでまいります。 これからの時代に合った職住共存・職住近接の形を追求し、例えば徒歩や自転車利用の圏内で生活と仕事を両立できるまちは、目指すべきひとつの姿であると考えております。暮らしに不可欠な生活交通を維持・確保しつつ、まとまった域内で日々の営みを完結させられる暮らし方を望む人々に、活動の拠点として選ばれるまちを目指してまいります。 スクラップ・アンド・ビルドの考え方は、時として、価値あるものを末永く大切にする文化が受け継がれてきた京都のまちづくりにおいては、相応しくない場面もありますが、建築物等が必要に応じて適切にアップデートされるよう取り組むことで、まちの魅力や活力の維持・向上を図ってまいります。
【コンパクト×ネットワーク】 ・ 移動性、利便性の低さが、京都の成長、ポテンシャルの活用を大幅に阻害しているように感じる。各地域の発展計画はいいが、それを支える交通インフラの再計画、整備を急ぐべきではないか。 ・ 京都都市圏の成長のため、積極的に役割を果たすべき。 など		本市では、鉄道や幹線道路が交通ネットワークの中で大きな役割を果たしております。それらを中心として形成された都市軸をいかしながら、京都ならではのコンパクトでまとまりがある、災害にも強いまちづくりを進めてまいります。 また、近隣都市との一体性や相互に与え合う影響を視野に入れつつ、京都都市圏の中核としての魅力と活力の維持・向上を図るとともに、京都独自の求心力を発揮し、京都ならではの魅力の発信を図ってまいります。
「目標とする都市の将来像」に関すること (p. 5)	132	
【活力・賑わい】 ・ 国際競争力日本一、経済力日本一の京都市を目指し、若者に選ばれる質の高い魅力的な雇用を生み出し、唯一無二のまちとして成長することを願う。東京でもない、大阪でもない、圧倒的な京都を守ってほしい。 ・ 京都市が日本のみならず、世界に対して、研究開発や文化などの点で役割を果たし続けるべきである。 など		産業・商業・業務・学術等様々な機能や資源の集積をいかし、長期的な視点を持って、市外の方々とも協力し合い、最新技術を取り入れることで、世界に類を見ない価値を新たに創造し続け、まち全体の活力を生み出してまいります。 加えて、ものづくり産業の集積地や研究開発拠点等においては、産学公連携を促すことなどにより、国際競争力を高める環境整備を進めるとともに、各分野で多彩な才能を持つ人々を世界中から呼び込むことで、共創を通じた新たな文化や産業が生み出される「クリエイティブな都市」を目指してまいります。

【暮らし】 ・ 京都は歴史や文化だけでなく、「暮らして楽しい」「日常が豊か」と感じられる都市になることで、より持続可能で魅力的なまちになると思う。今後のまちづくりに、子育て世代や市民の日常目線をより反映してほしい。 ・ 京都市は地球温暖化対策に力を入れているため、このポイントをしっかり取り上げることが、京都市ならではの都市づくりを行っていくというスタンスを明確にできると思う。 ・ 脱炭素に対する記述が必要ではないか。 など	市内で育った方はもちろん、進学等を機に市内へ転入してきた方、その後子育てを始めた方など、どのようなライフステージにあっても、暮らし続けることができ、移住先として選ばれるまちを目指します。 また、京都ならではの地域コミュニティが受け継がれる身近な生活圏で「職住」のみならず多様な機能が融合した、暮らしや子育てなど日常を送ってみたいくなる生活空間の形成を図ってまいります。 脱炭素社会の実現に向けては、都市計画分野においても自然環境との調和、資源やエネルギーの有効利用等の視点は重要であり、「都市計画に関する基本的な考え方」に記載します。
【文化・景観】 ・ 歴史ある文化をいかに守っていけるかが大切である。 ・ 京都の良さは文化・観光等もあるが、それだけではなく、山・川・緑等や学術をはじめ素晴らしいものがたくさんある。それらを大切にすることが必要である。 ・ 利便性や経済性だけでなく、「京都らしさ」を将来にわたり維持・継承する視点をより重視していただきたいと考える。全国どこにでもあるような風景へと変化しつつあることに危機感を覚える。 など	長年継承されてきた建物や庭園、祭りなどの伝統行事、伝統芸能、慣習など人々の日々の営みと不可分である歴史や文化、暮らしの土台となっている豊かな自然や景観を、今後も大切に未来へ引き継いでまいります。 また、歴史的な町並み景観の保全に加えて、京都らしい情緒を色濃く残す路地空間の保全・再生、人々の生活や生業から醸し出される文化的景観の保全・形成など、地域の活力や魅力を向上させる景観づくりを進めてまいります。
【安心・安全】 ・ 社会的障壁の除去に留まらず、障害のある人を含むすべての人が暮らしやすい、ユニバーサルな街づくりを明確に掲げるべき。 ・ 防犯の視点が欠けているのではないか。子育て世代を中心に、事故や犯罪のない街には高い関心があるため、その点の記述をすべき。 など	ユニバーサルデザインの理念に基づき、出自や生い立ち、年齢、性別、国籍、性自認や性的志向、宗教や信条、身体的・精神的特徴にかかわらず、誰もが暮らしやすい、安心で安全な都市を目指してまいります。 地域コミュニティの絆は、平時の穏やかな暮らしの土台であり、地域の安全活動の取組につながると同時に、災害など有事の際にも人々の命を守る礎となります。地域活動が活発に展開される都市を目指すとともに、安心と愛着を抱きながら過ごせるまちづくりを進めてまいります。

その他	12	
・ 現代社会では、孤独・孤立、不登校、引きこもり、精神的不調などが増えている。その背景には、人と人とのつながりの希薄化や、自分自身とのつながりの喪失があるように感じている。子どもたちが未来に希望を持ち、大人たちもまた自分らしく生きることを諦めず、誰もが安心して深呼吸できるまち。これからの京都が単なる観光都市や経済都市ではなく、「人が自分自身に還ることのできる都市一心の都」として世界に新しい価値を示してほしい。 ・ 多文化共生が流行っているが、他文化強制にならないように気をつけてほしい。 ・ 首都機能を更に受け入れる体制を都市計画の観点から整備すべき。 など		いただいた御意見は、関係部署とも共有の上、今後のまちづくりの参考とさせていただきます。

③ 「第2章 テーマ別方針」について（428件）

皆様の主な御意見（要旨）	件数	御意見に対する本市の考え方
「活力・賑わい」に関すること（p.6）	112	
【究める 世界に類を見ない価値を創造するまち】 ・ 京都市内に本社や大企業の主要な拠点などの働く場をもっとつくってほしい。夫婦共働きで京都市内に住みたくても、夫婦ともに京都市内で就職するということが難しい。 ・ 若者が住み続けたい街と書いてあるが、そもそも市内に魅力のある働く場所が少ないから定着しないのでは。 ・ 世界に類を見ない価値を創造するまちとあるが、これこそが京都市の魅力であり、更に磨いてほしい。 ・ 無闇に商業施設やオフィスビルを増やすことが未来の発展につながるとは思えない。 ・ 大学を卒業した若者などに魅力的な雇用を京都市内に創出すべき。スタートアップ企業向けオフィスの整備を推進すべき。 ・ 都市計画道路の整備状況が遅く、目指すべき都市のためのインフラ整備が整っていないところが多々ある。 ・ 交通の利便性向上を最優先ですべき。移動性、利便性の低さが、京都の成長、ポテンシャルの活用を大幅に阻害しているように感じる。 など		都心部においては、京都ならではの歴史的な町並みや多様な商業機能といった魅力をいかしながら、企業の本社やオフィス・ラボ等の集積を進めることで、そこで働く多彩な人々の交流を促し、新たな産業の創出を図ってまいります。 また、ものづくり産業の集積地や研究開発拠点等においては、大学、世界的企業、中小・スタートアップ・ベンチャー企業によるオープンイノベーションや産学公連携を促すことなどにより、国際競争力を高める環境整備を進めてまいります。 道路ネットワークは都市の骨格であり、物流や通勤、通学での利用にとどまらず、地域の賑わいにもつながる、大変重要なものです。そのため、持続可能なまちづくりに不可欠な効率的で効果的な道路ネットワーク形成を進めてまいります。
【魅せる 夢中と感動に溢れた人生とまち】 ・ 観光や外部からの人の受け入れ拡大だけではなく、今この街で暮らしている市民、特に子育て世帯が安心して生活できる環境を最優先に考えてほしい。 ・ 観光については、「観光客向けの京都」だけではなく、「京都に住む人が行きたくなる京都」をもっと増やしてほしい。現在は観光地と地元の人が利用する場所が重なり、混雑が集中している印象がある。そのため、比較的人が少ないエリアにも魅力を分散させ、地域ごとの個性を活かしたまちづくりを進めてほしい。 ・ 京都市は、京都市少年合唱団や京都市交響楽団など優れた合唱団、楽団があり、音楽教育も熱心に取り組まれて来た地であることから、まちのなかで音楽に触れる機会が増えればと思う。ストリートピアノのようなものがあれば、まちの活性化につながるのではないか。 など		市民生活との調和・両立の下、京都観光にかかわる全ての人々にとって質・満足度が高く、心や人生を豊かにするといった「観光の本質」を皆が享受できる、そして市民生活の豊かさの向上につながる持続可能な観光・MICEを目指してまいります。 また、京都のまちなかにふさわしい魅力的な都市空間を創出し、快適に回遊できる歩いて楽しいまちの実現を図るとともに、商業機能だけではなく、美術館や劇場といった文化施設など、多様な機能を集積させることで、暮らす人、働く人、観光や買物に訪れた人など、世界中の様々な人々が、出会い、交流し、共創するまちを目指してまいります。

「暮らし」に関すること (p. 6～7)	142	
【住まう それぞれの望む暮らし方を実現できるまち】 ・ 今、京都市の真ん中は、観光客か高齢者ばかりである。実際に生活をしていると如実に感じる。それは、若い人たちが住む家・マンションの賃貸・購入が非常に難しいからである。「若い人たちが京都市内に住める街づくり」を一番の、喫緊の課題として取り組んでほしい。 ・ 誰もが安心して暮らし続けられる「子育てや福祉に手厚いまちづくり」の実現を強く希望する。 ・ 用途規制が厳しすぎて生活に支障が出ているため、日常生活の核となる買い物をする場所が足りていない地域などの用途を緩和してほしい。 ・ 人が住むうえで、結構重要なポイントが買い物できる場所があるかどうかだと思う。スーパー等の出店場所については民間事業者の判断が大きいですが、住居系のエリアには、都市計画的に事業者に対してスーパーや商業施設の立地を誘導する方策も検討してほしい。 など		就職、結婚、子育てなどライフステージに応じた住まいを選択できるよう、交通便利性や自然環境、地域コミュニティとのつながりといった地域特性を踏まえた居住環境の創出を進めるとともに、既存住宅の適切な更新やリノベーションによる住宅供給を図ってまいります。 また、住環境に配慮しながら、多彩な用途が適度に混在し必要な機能が身近にある、誰もが心地よく豊かに暮らし、過ごすことができるまちづくりを進めます。 日常生活エリアでは、日々の暮らしに欠かせないスーパーや診療所、高齢者福祉施設、保育所といった毎日の暮らしを支える都市機能の充実と適切な配置を進め、生活利便施設が充足し、多世代が安心・快適に居住できる生活圏の形成を図ってまいります。
【繋ぐ・動く 健康で文化的な生活を営み続けられるまち】 ・ 「暮らし」のテーマで、ウォーカブルなまちづくりや公共交通の利便性向上が掲げられている点は、子どもを連れての外出が多い子育て世代にとって非常に重要。 ・ 無人運転などの自動化技術を積極的に取り入れることが急務である。是非、固定観念にとらわれない自由な発想で、先端技術を活用してほしい。 ・ 交通インフラ（LRT）や自転車専用レーン、歩道の拡充は、目指して欲しい。 ・ LRTは是非とも実現してほしい。 ・ 2050年を目標とするなら、地球環境と共生する都市との記述の中に、カーボンニュートラルの内容がないのはあまりにも不自然ではないか。 ・ 「自立分散型エネルギーシステム」「エネルギーの面的利活用」「エリアマネジメント」といった方向性をあらかじめ示すことにより、仕組みとして都市の防災力向上を図ることが都市戦略としても有効ではないか。 など		暮らしに不可欠な生活交通の維持・確保に加え、すべての人が快適・便利に利用できる公共交通の維持・向上を図ってまいります。 また、公共交通の担い手不足の課題に対しては、自動運転やMaaS（Mobility as a Service）等の最先端技術を取り入れ、持続可能な都市を支える公共交通ネットワークづくりを進めてまいります。 公共交通と徒歩や自転車、新たなパーソナルモビリティなど多様な移動手段をかしこく組み合わせた、快適に出かけるスマートなライフスタイルの定着など、安心・安全な移動をするための取組を進めてまいります。 また、環境にやさしい新たな公共交通システムの検討をはじめとする公共交通網の充実と「クルマ中心」から「徒歩・公共交通中心」への転換を図ることなどにより、地球環境と共生する都市を目指してまいります。 加えて、脱炭素社会の実現に向け、都市計画分野においても自然環境との調和、資源やエネルギーの有効利用等の視点は重要であり、記載を充実します。

「文化・景観」に関すること (p. 7)	95	
【守る 自然との不可分性・ 一体性を体感・体得できるまち】 ・ 歴史的町並み景観、歴史的建築物の保存・継承・活用の打出しが弱い。歴史的建築物をうまく活用し、将来に継承していくことを方針として打ち出してほしい。 ・ 京都市内の電柱をゼロにすることも是非やってほしい。 ・ 建物の高さ制限は維持されるべき。これ以上周りの山なみがとぎれないように。 ・ 住宅に関しては景観規制が厳しすぎる。補助金も出ないのに制限ばかりで思ったように建築できない。 ・ 山間部の生活の中で行われている農林業等によって、水田や山の保水力を保つことで、麓の都市部の洪水被害を防ぐといった作用もある。山間部にも人が引き続き住み、農林業が営まれることで結果として都市部を守ることにもなる。 など		本市には、京町家をはじめとする歴史的建造物や庭園が点在し、風情ある町並み景観が形成されており、積極的にこれらの建造物の保全・再生・活用を図ってまいります。 また、美しい景観の保全・再生など良好な景観形成に向けて無電柱化を推進してまいります。 景観の保全と必要な都市機能の確保は、いずれも本市にとって非常に重要です。本市が今後も発展を続けられるよう、守るところは守り、伸ばすところは伸ばす、バランスに配慮したまちづくりを進めます。 山間部においては、みどり豊かな自然環境の育成・保全を前提に、森林や農地の維持管理において重要な役割を果たしている地域住民の暮らしを支えるため、既存集落の住環境・生活環境の充実、産業の振興、定住人口の確保による、地域の生活・文化、コミュニティの維持・継承を図ってまいります。
【交ざる・憩う 世界中の人々から活動の拠点として選ばれるまち】 ・ 京都が文化都市として生きていくためには「ほんまもん」の芸術・文化を追求していくことが必要。それが観光資源や京都の産業・商売にもつながっていく。大学都市としての「ほんまもん」の学術都市を目指してほしい。 ・ 子どもが遊ぶ場所や設備やサービスが圧倒的に少ないと感じる。 ・ 図書館について、中央図書館はアクセスが悪い上、他都市と比べて非常に狭く貧弱。他の館も狭く、古く、アクセスがよくない場所が大半である。まずは使いやすい場所に、しっかりとした施設を作してほしい。 など		歴史や文化、学問や産業など、京都独自の特性をいかし、文化芸術とまちづくりの連携を図るとともに、世界中から集まった多様な人々が出会い、集い、交流することで、新たな魅力や価値を創造し、新旧の魅力が融合する都市を目指してまいります。 日常に潤いをもたらし、健康や交流を育むなど、様々なニーズに対応する身近な公園や緑地、スポーツ・レクリエーションなどの施設の整備や多様な主体による柔軟な施設の運営を進めてまいります。 また、学校や図書館、区役所なども含めた公共空間について、広く地域に開くよう取り組むとともに、都市開発の機会をとらえ魅力的な空間の創出を誘導してまいります。

「安心・安全」に関すること (p. 7)	53	
【防ぐ・備える 危機に備え、対応し、立ち直ることができるまち】 - 道路の陥没事故や水道管の破裂が時折報道されている。特に道路の陥没は罪のない人たちが命を落とすこともあるので、ぜひとも早急な調査と対応をお願いしたい。 - 無電柱化の早期実現に期待する。 - 我が家の近くでも空き家が多く見られ、治安上の不安があるほか、今にも倒れそうな空き家は防災上の不安もある。 など		老朽化した水道管や下水道管の更新を推進するなど、インフラの老朽化対策を着実に実施し、計画的で適切な維持、修繕を図ってまいります。 災害発生時の電柱倒壊による被害発生や緊急車両の通行などの救援活動を妨げることがないように、無電柱化を推進してまいります。 密集市街地などにおける防災まちづくり活動の支援などに加えて、空き家の発生の予防、活用・流通の促進、適正な管理の推進など、総合的な空き家対策を図ることにより、安心・安全なまちづくりを推進してまいります。
【支え合う 多彩なつながりで、安心と愛着を抱けるまち】 - 防災や防犯、地域の行事、見守りなど、地域に求められることは増えている一方で、仕事や子育てなどで忙しい世代も多く、これまでと同じ形で地域活動を支えるのは難しくなっているのではないかと。 - 地域主導のフードバンク活動などの福祉活動が生まれやすく、集まりやすい拠点（地域のコミュニティスペースなど）の整備を都市計画の側面からバックアップしてほしい。 - ホテル、簡易宿泊施設などの乱立により地域住民はますます減少、町内会や自治体の活動もどんどん消えてゆき、安心安全への不安は増すばかりだ。 など		住民自治の伝統を継承する地域コミュニティの絆は、平時の穏やかな暮らしの土台であると同時に、災害など有事の際にも人々の命を守る礎となります。この視点の下、地域との連携をこれからも大切にして、日頃から各地でコミュニティの醸成・維持等が図られ、地域活動が活発に展開される都市を目指してまいります。 また、既存の用途制限により用途純化が進むことで、地域コミュニティ形成のために役立つ施設が不足している場所に、新たな出会いと交流の機会を生む場所づくりを進めることで、地域コミュニティの強化に寄与してまいります。 住宅から小規模宿泊施設などへの転換が相次ぎ、地域内の調和が乱されるケースなど、地域コミュニティに影響を及ぼす課題に対しても、対策を検討してまいります。
その他	26	
- 京都市は、大都市に比べ迷惑喫煙が多いため早急に対応策を講じてほしい。 - 野良猫が糞尿している公園の砂場で遊ぶ子供たちを見るたびに、すごく胸が痛み、都市として行政として対策の必要性をすごく感じる。 など		いただいた御意見は、関係部署とも共有の上、今後のまちづくりの参考とさせていただきます。

④ 「第3章 エリア別指針」について（707件）

＜全般＞（202件）

皆様の主な御意見（要旨）	件数	御意見に対する本市の考え方
- これまでよりエリアの範囲を狭めて、「まち柄」に応じて設定するのは良いことだと思う。 - エリアごとの地図に合わせた説明がリアルで分かりやすく、行政文書的な言い回しでなく、日常会話に近い文言を取り入れた説明が良いと思う。 - 地域ごとに、いろいろな魅力があり再発見できた。 - ビジュアル的に全体のイメージが分かりやすくよかった。 - エリア別指針に入っていないところには発展がない印象を受けてしまうので、それぞれの土地柄に応じた方針をもれなく記載してほしい。 - まち柄も移ろうので、良い時期に見直しを考えてほしい。 など	202	個々のエリアの強み・役割を明確化し、エリア間相互のつながりも踏まえ、個々のまち柄に応じたまちづくりを行うため、市民・事業者にとってより身近な方針として各エリアの将来像を示しています。 まち柄や将来像については、特徴的なエリアを選定して、代表例として記載しているものもあり、それらの内容については、記載のエリア以外においても該当する場合があります。 また、エリア別指針に記載のないエリアのまちづくりについても、本プランで示す都市の将来像やテーマ別の方針などを踏まえながら、記載のあるエリア同様に着実に進めてまいります。 将来像については、現在のまちの状況を踏まえお示ししたものであり、今後社会経済動向の変化等があれば、それに適宜見直しを図ってまいります。

＜北部方面＞（144件）

皆様の主な御意見（要旨）	件数	御意見に対する本市の考え方
「若者が愛着を持ち、挑戦し続けられるまち」に関すること（p.10～11） - 出町柳駅～吉田山エリアに住んでおり、出町柳周辺が再開発されることは喜ばしい。学生が沢山住んでいる街なので、学生が住みやすい美しい街並みになることを期待する。 - 吉田周辺は、京都大学の知があるので、単なるスタートアップではなくディープテックに強みがある。その点も具体的に書くべきではないか。 - 出町柳駅周辺において、スタートアップ・ベンチャー企業の立地の需要は見込めないと思う。 - 一乗寺エリアの範囲が四方に広すぎると思う。特性の違う地域に跨がっていて、計画が機能するか疑問である。 など	38	数多くの大学が立地し学生が多く居住する地域であることや、大学発のスタートアップ・ベンチャー企業が増加しているというまち柄をいかし、周辺の住環境との調和の下、大学入学を機に転入した若者が地域に愛着を持ち、新たな挑戦をし続けられるまちづくりを進めてまいります。 出町柳駅～吉田山エリアにおいては、住環境との調和の下、駅を中心に更なる賑わいの広がりや都市機能の集積を図るとともに、地の利をいかして附属病院を含め大学と緊密に連携するスタートアップ・ベンチャー企業の立地を促進してまいります。 一乗寺エリアについては、記載しているような、若者が活動しているまち柄がより色濃く表れているエリアが範囲となるよう、明示いたします。

「文化芸術・MICE・学術が多様な交流をうむまち」に関すること（p. 11）	54	
・ 国際会館はあるだけで地元に対して何かしてくれるわけでもない。住んでいる人の目線に立った分析をしてほしい。 ・ 北山エリアは府立施設が多く、引き続き府市一体による都市計画を推進すべき。 ・ 京都工芸繊維大学を含む松ヶ崎地域については、北山エリアに組み込まれるべきではないか。 ・ 京都府の北山エリアの事業は、京都府の所有地の中だけすべき。周辺住宅に良い影響を受けるのは良いが、周りは静かにしてほしいと思っている。疑念を生むので、エリアの表示で周りの街を巻き込まないでほしい。 ・ 岡崎エリアは、近年の取組により賑わいが生み出されているが、MICEの誘致など、まだまだポテンシャルがある。 ・ 岡崎エリアは、様々な文化施設がある。メリハリなくあちこちで同じような賑わいを求めないで、地域の特性を知ってほしい。 など		文化芸術・MICE・学術関連等、多彩な施設が立地し、多くの人々が訪れるエリアです。良好な住環境や豊かな緑と調和した魅力的な機能を一層充実させ、更なる賑わいや多様な交流をうむまちづくりを進めてまいります。 北山エリアについては、都市計画マスタープランの一部である地域まちづくり構想「北山文化・交流拠点地区」を対象範囲としており、周辺とも連動しながら、文化芸術と学術の香りが漂う、品のある華やぎと賑わいが人々を惹きつけるまちづくりを進めてまいります。

「歴史・文化、匠の知恵や技をいかした創造と革新のまち」に関すること (p. 12)	13	
- 西陣の町並みを大切にしてほしい。この辺りはたくさん町家がある。 - 京都市上京区の京都府警北野待機宿舎跡地が「国立文化財修理センター」の正式な候補地とされることが発表されたことから、北野天満宮周辺について、歴史的な経過や受け継がれてきた文化・営みを踏まえ、地域の活性化にも資する文化ゾーンとして、まちの更なる活性化につながる方向性等を検討してほしい。 - 北野白梅町駅周辺において、自然発生的に小さな事務所が立地することはわかるが、行政がこのエリアにオフィスの立地を促進するのは違和感がある。 - 京都御苑周辺を中心とする上京区は、世界に誇る品格の高いエリアとして価値を高めてほしい。 - 原谷エリアは、伝統産業の工房や桜の名所など、特定の目的や季節がなければ訪問する機会が少ないが、新たな価値の創出や地域活性化に向けた取組が進められているのであれば、具体的な方向性を教えてほしい。 など		長い歴史の中で地域に根付いた伝統産業の長期的な低迷が続く中、それを生業にする方々が様々な工夫を講じながら課題に立ち向かっており、近年では京町家や路地などのまちの魅力をいかしながら、新たな「クラフト(手仕事)」が多彩にうまれつつあるエリアです。伝統と革新それぞれの知恵や技術が磨き上げられ、あるいは時に互いに交わることで、京都ならではの逸品や価値が絶えず生み出され続けるまちづくりを進めてまいります。 西陣エリアについては、国立文化財修理センター(仮称)が整備されることも踏まえ、更なるまちの魅力・活力の向上を目指してまいります。
「地域の賑わいの中心となるまち」に関すること (p. 13)	10	
- 北大路駅周辺について、既存の商店街の活性化くらいなら分かるが、新たな商業施設の立地を企てているのか。どこにどう配置するつもりか。 - 楽只～北大路通エリアは、京都市北部をけん引する拠点となり得るエリアである。観光地や学生の多いまちのポテンシャルを活かし、佛教大学などと連携しながら、北区の中心として活力のあるエリアになってほしい。 など		本市北部の交通の要衝であるとともに、歴史ある数々の寺社や大学、商店街、商業施設もあり多様な人々が往来しているエリアです。本市北部の交通結節点として多くの利用者が行き交う北大路駅周辺と市営住宅の団地再生事業によりうまれる将来活用地等のポテンシャルをいかし、地域の賑わいの中心となるまちづくりを進めてまいります。
「山あいの豊かな自然の中、独自の伝統文化が受け継がれるまち」に関すること (p. 13)	29	
『山あいの豊かな自然』などという綺麗な言葉で誤魔化さず、コミュニティや生活の維持を目指してほしい。 - 林業や農業の後継者を大至急育て、地域の産業と共に定住できるようにしなければ豊かな自然は守れない。 など		素朴な美しさをたたえた自然と人の営みとが調和したエリアである一方で、地域コミュニティの衰退や日常生活などに必要な交通手段の確保が課題となっています。多様な地域特有の暮らしを継承するとともに、豊かな自然や森林資源をいかし、持続可能で、人々が交流を深めるまちを目指してまいります。

<都心部方面>（１３１件）

皆様の主な御意見（要旨）	件数	御意見に対する本市の考え方
「京都ならではの都心空間を体現するまち」に関すること（p. 14）	17	
- 歴史的都心地区周辺は、日本、関西、京都の経済をけん引するエリアであり、更なる成長を期待する。 - 歴史的都心地区について、伝統＋居住という方針になっているが、京都随一のオフィスやイノベーション、京都最大の商店街、現代的かつ高感度な物販飲食、若者カルチャーなどのメッカでもあり、そういった都心的要素の観点が抜けているのでは。 など		多くの企業や商業施設、宿泊施設等が立地するとともに、受け継がれてきた歴史・文化や京町家などの貴重なストックを守り、いかながら、活発な交流が活力をうむまちとして、複合的な機能が重なり合う京都ならではの都心空間を目指してまいります。
「京都の玄関口として都市活力をけん引するまち」に関すること（p. 15）	68	
- 京都駅周辺にはぜひ高層ビルをはじめとする再開発、活性化計画を進めてほしい。メリハリをきかせることは京都でも有効だと思う。 - 玄関口として、オフィス面積の不足や駅前の混雑が課題としてあげられているが、北側は三山、盆地景や本願寺を感じる入口として容積・高さを上げるべきでなく、南側の開発を促すべき。 - 京都駅前にこれ以上高い建物はほしくない。山並みが見えなくなる。京都のまちの特徴をなくさないでほしい。 - 京都駅前に高いビルを建てて誰が喜ぶのか。歴史都市としての体裁も風情も台無しになる。 「ウォーカブルで豊かな公共空間」の整備はとても重要だと思う。観光客だけでなく、京都市民がゆったりと過ごせるような場所ができるといいと思う。 など		国際文化観光都市である京都市にとって、京都駅は、市民はもちろん、国内外から訪れる人の多くが利用する、文字どおり代表的な「玄関口」である一方で、駅前にオフィス空間が不足していたり、歩行空間が狭あいである人が滞留・往来できる空間が少ないなどの課題があります。とりわけ駅に近接する場所においては、国内外問わず都市間競争が激化する中で、国際競争力を持つ京都経済のけん引役となるオフィス・ラボ、賑わいの核となる商業施設、さらにはそうしたコア的な役割を担う施設と連携する拠点などの都市機能の高度集積を進めるとともに、ウォーカブルで豊かな公共空間やストリートが多様な交流をうむ駅前空間を創出してまいります。
「都心西部の拠点として多様な機能が集まる活気あるまち」に関すること（p. 15）	11	
- 二条駅周辺について、ＪＲや地下鉄が通り交通利便性が非常に高い魅力をいかし、四条大宮エリアと連動しながら、京都市をけん引するエリアに成長してほしい。 - 二条駅のサブゲート化は京都駅一極集中の交通ネットワークを分散化することが重要。 など		鉄道やバスなど高い交通利便性や地域特性をいかし、二条駅周辺、四条大宮周辺の両エリアの連携を図りながら、西部方面へ活気を導く拠点として、多様な機能を集積させ、更なる魅力の創出を目指してまいります。 二条駅周辺については、都心西部にある主要なサブゲートとなるよう、将来的な駅前広場の再編も視野に都市基盤整備を進め、駅周辺の魅力を更に向上させてまいります。

「京都固有の歴史や暮らしの文化と賑わいが調和するまち」に関すること (p. 16)	22	
- 丸太町駅周辺について、文化庁が移転整備され、官公庁エリアとしての格が高まったことを記載するとともに、更なる首都機能受け入れ体制の拠点とするまちづくりを進めてほしい。 - 京都駅一極集中を副都心エリアの二条や山科、三条に分散すべき。 - 東山エリアについて、早急に手を打つべきだと思う。本当に簡易宿所とレンタル着物屋ばかりになっている。このままでは本当に人がいなくなるか、いても地域と全く関係のない根無し草のような人たちだけのエリアになってしまう。 「住環境が周辺の行き過ぎた賑わいにおびやかされているエリアもあります」とあるが、他にもそういったエリアがあることは良く認識すべき。 - 特定の区域の簡易宿所(民泊)について、運営を厳しくする条例を制定してはどうか。例えば、簡易宿所の宿泊税を上げる、民泊の年間営業日数の上限を下げる、管理人の滞在義務を厳しくする等。 など		鉄道駅周辺の交通の便が良いエリアであり、特徴あるまちの歴史を刻みつつ、多くの来訪者を迎えているエリアです。京都らしい暮らしを守りながら、多様な人が働き、交流するまちづくりを進めてまいります。 丸太町駅周辺については、文化庁、裁判所、府庁などから成る京都の官庁街としての風格のある拠点を形成してまいります。 三条駅周辺については、サブゲートとしての更なる発展も期待される中、多様な機能が集積した賑わいと活力あふれる拠点の形成を目指してまいります。 住宅から小規模宿泊施設への転換が相次ぎ、地域内の調和が乱されるケースなど、地域コミュニティに影響を及ぼす課題に対しては、東山エリアのみならず市内全域において、対策を検討してまいります。

「アートや伝統・先端産業などが融合したクリエイティブなまち」に関すること (p. 17)	13	
- 七条駅周辺は、京都駅からも徒歩圏内のエリアなので、京都駅からの連続性を考慮したまちづくりが進んでほしい。 (五条坂～東福寺駅エリア等について) 商店は街の要であり、複数の商店があると街に賑わいが生まれ、地域が活性化するため、商店街を復活させてほしい。 - 梅小路エリアについて、エリアの新たな動きのすべてがリサーチパークで起きているような記述になっているが、エリア内の既存建物を活用したモノづくり、アート、食をテーマにした様々な動きこそ注目して応援、育成すべき。 など		伝統産業や先端産業に携わる人々、またアートを志す学生などの多彩な技術、知恵、思いのクロスオーバーが、まちに更なる活力をもたらす可能性があるエリアです。文化芸術都市の取組や伝統産業などをいかした新たなイノベーション拠点の創出を目指してまいります。 七条駅周辺については、京都駅との近接性もいかしながら、多様な主体による取組の連動により、文化芸術都市・京都の新たなシンボルゾーンとして更なる魅力向上を目指してまいります。 五条坂～東福寺駅エリアについては、京都駅から近い利便性の高さや近隣の文化芸術に関する取組、この地に受け継がれる伝統産業等をいかし、新たなチャレンジを志す人を後押しするなど、住環境や地域コミュニティを大切にしながら、新たな魅力の創出を目指してまいります。 梅小路エリアについては、京都リサーチパークを含む周辺の多様な人々の連携によって、「クリエイティブ・タウン」実現に向けたまちづくり活動が活発に行われています。特色ある既存ストックの有効活用とあわせて、クリエイティブな人材が集うこの地の特性をいかしたまちづくりを後押ししてまいります。

<東部方面> (51件)

皆様の主な御意見（要旨）	件数	御意見に対する本市の考え方
「京都の東の玄関口として多くの人が集う魅力あるまち」に関すること (p. 18)	17	
- アクセスは抜群で、更なる成長が見込めるポテンシャルの高いエリアである。地価やアクセスの良さから見ても、特に子育てしやすいエリアとして、子育て世代が喜ぶ施設等の誘導を推進してほしい。 - 山科駅周辺は数年後にはるかの終着駅となり、京都の玄関口としての機能を果たすと思う。 - 特急「はるか」の山科駅延伸に反対する。またそれに合わせて宿泊業者を呼び込むことに反対する。 など		地下鉄・JR・京阪の各駅が所在し、東西と南北いずれにも幹線道路が走る、まさに京都の東の玄関口であり、今後の関西国際空港からの特急「はるか」延伸、機能を充実させた図書館や市内東部地域初となる大型の子どもの屋内遊び場の整備などによって更に発展が期待できるエリアです。このような今後更に多くの人を訪れるエリアとなるポテンシャルをいかし、宿泊機能をはじめ、サブゲートにふさわしい駅前空間の創出や商業・業務機能の集積などを進めることが、更なる魅力向上につながると考えております。

「賑わいあふれる歩きたくなるまち」に関すること (p. 19)	10	
・ 少し前に外環状線沿いで規制が緩和されたが、範囲が狭すぎると思う。山科を景観政策という縛りから解放すれば、ベッドタウンを超え中核市レベルに発展を遂げる未来も、十分にあり得ると思う。 ・ 外環状線沿いの建物高度規制が撤廃され景観に悪影響がでている。元の高度制限に戻すべき。 ・ 新十条通沿道は、買物施設も並んでおり、地域の商店街的雰囲気もあるのでは。 など		幹線道路沿いには商業施設等が集中し、大規模なマンションの立地が進んでいるエリアです。更なる魅力の創出や活力の向上に資する多様な都市機能を集積するとともに、安心・快適で歩きたくなるような賑わいと潤いある都市空間を形成してまいります。 外環状線沿道については、地下鉄駅周辺で展開される新たな魅力づくりとも連動しながら、若年・子育て世帯のニーズに合った居住環境を創出するとともに、広場空間や店舗を誘導するなどにより、まちの賑わいや歩きたくなる空間を生み出し、人と人のつながりを促すまちづくりを進めてまいります。 新十条通沿道については、外環状線との交差点付近に多様な施設が立地しており、幹線沿道を中心に、更なる新たな魅力と活力の創出に資する多様な都市機能の集積を図ってまいります。
「多様な住まいのニーズを受け止めるまち」に関すること (p. 20)	3	
・ 幅広に若年・子育て世帯の住まいニーズを受け止めることのできるまちを目指すとしているが、現在このエリアに高齢世帯が多いことや、公共交通機関が貧相なことを踏まえ、どのような流れで若い世帯に来てもらう道筋を立てているのか。自動車の利用を前提としているということか。 など		駅から少し離れているところもありますが、三条通、外環状線や国道1号、名神高速道路など主要な道路に近いエリアであり、とりわけ、小さな子どもを伴う世帯層など、日用品の買い出しや行楽等に自動車の利用を求める若年・子育て世帯の住まいのニーズを受け止めることのできるまちづくりを進めてまいります。
「大規模な住宅団地を活用した新たな魅力を発信するまち」に関すること (p. 20)	4	
・ 他エリアではなく醍醐駅～石田駅エリアで芸術家支援を展開する理由や、この取組が将来的にどのような地域づくりにつながることを目指しているのかについても、説明してほしい。 など		大規模な住宅団地が立ち並ぶエリアであり、既存施設を適切に維持・活用し、若者から高齢者まであらゆる世代にとって魅力的な居住環境の充実を図るとともに、新たな魅力の発信や創出など、若年・子育て世帯の呼び込みにつながる取組を進めてまいります。 醍醐駅～石田駅エリアについては、既存公的ストックを有効に活用しながら、新たな住まいと賑わいを創出し、周辺エリア一帯の魅力向上を図ってまいります。

「地域の人が集い、学び、交流する拠点となるまち」に関すること (p. 21)	17	
- 醍醐駅周辺に広がる広大な市営住宅地は、現状のまま維持するよりも、駅に隣接した土地を民間に売却・開放し、高度利用を促す方が、市の財政および地域の活性化にとって合理的であると思う。 - 東部クリーンセンター跡地はこのエリアの雰囲気を変える起爆剤になると思うので、魅力的な開発をしてほしい。 など		公共施設や商業施設など多くの人々が利用できる施設が所在しているエリアです。各公共空間の魅力向上・活性化を図り、それらをいかして子どもから大人まで地域の人が集い、学び、交流する拠点を創出するとともに、バス・地下鉄が連携した便利な交通ネットワークの実現に向けた取組を進め、周辺の居住環境の向上を図ってまいります。 醍醐駅周辺については、駅周辺の公共空間を多世代が居心地よく過ごせる場所にするなどにより、居住環境の魅力向上を図ります。 東部クリーンセンター跡地では、コミュニティスペースや子どもの居場所・遊び場などを備えた複合図書館、大規模な緑地などを一体的に整備すること等を検討しています。子どもや大人が集い、つながり、笑顔で満たされる場を創出してエリアの魅力を高め、それを周辺へと波及させてまいります。

<南部方面>（６３件）

皆様の主な御意見（要旨）	件数	御意見に対する本市の考え方
「産業の集積地として京都の活力をうむまち」に関すること（p. 22～23）	29	
• もっと京都駅南側の開発を進め、住宅地をオフィスにすべき。 • らくなん進都内の義務緑化率を低減し、地区内の企業の設備投資、企業立地の促進を図るべき。 • らくなん進都は、既に都市基盤が十分整ったなかで次の企業誘致が全く進んでいないことを認識し、原因を突き止めたうえで必要な施策を展開すべき。 • 京阪電車中書島駅を起点に西へ電車網（路面電車）を走らせることで陸の孤島といわれている羽東師地域を活気づかせることができるのでは。 • 横大路エリアについて、伏見ルネッサンスプランとの連携はないのか。 • 南部に市街化調整区域は必要なのか。もっと産業や住宅地として活用してはどうか。 など		オフィス・ラボ、商業、ものづくり、物流など、様々な経済活動の場が集積し、京都のまちの活力の源となっているエリアです。地域特性に応じた産業が集積し、それぞれの強みを伸ばすまちづくりを推進してまいります。 京都駅南部エリアについては、京都駅やらくなん進都との近接性をいかし、イノベーションがうまれるオフィス・ラボを集積するとともに、クリエイティブな活動の場となり、京都の南部創造をリードするまちづくりを進めてまいります。 久我・羽東師西部エリアについては、周辺の環境と調和しつつ、将来の都市計画道路の整備も見据え、企業の操業環境の向上を図り、エリアの中に市内で唯一工業専用地域があるという地の利をいかし、更なる産業集積を進めてまいります。 横大路エリアについては、「伏見ルネッサンスプラン」の策定を受けて、都市計画マスタープランの一部である地域まちづくり構想「横大路地域」に位置付けております。 らくなん進都については、本市の最も重要な産業集積拠点として、また、新しい京都を発信するものづくり拠点として、魅力的な都市環境を生み出し、国内外の最先端のものづくり産業をはじめとする企業の進出意欲を高め、本社オフィスや生産、研究開発、流通機能などの充実を目指してまいります。 南部の市街化調整区域については、無秩序な開発を防止するとともに、高速道路のインターチェンジに近接するなど、交通利便性が高い場所において、農地などの周辺環境との調和を図りつつ、産業用地の創出を進めてまいります。

「地域の発展を支える活気あふれるまち」 に関すること (p. 24～25)	23	
- 竹田駅周辺に賑わいがあるかという、駅の東西ともに人が滞在できるスポットや立ち寄るお店もなく、寂れている感が否めない。駅から少し離れた場所には元々魅力的なスポットもたくさんあるので、駅周辺がもっと賑わいと活力を感じられるような環境になると、より魅力的な街になると思う。 - 中書島駅周辺を丹波橋・伏見桃山・桃山御陵前駅周辺と連動した観光地として整備できないか。 - 中書島駅は京阪本線の特急停車駅であるにも関わらず、駅周辺のポテンシャルをうまくいかしきれていないエリアだと特に感じるので、京阪電鉄と協調のもと、「商業・業務機能の充実などによって駅周辺の魅力向上」を是非図ってもらいたい。 - J R Aの協力を得ながら淀駅周辺の発展に期待したい。 など		古い時代から成り立ってきたまちがあり、これからも発展が望まれるエリアや、これからの開発事業等の展開によって活気がうまれる場となることが期待されるエリアです。長年受け継がれてきた地域資源や今後新たに創出される魅力的な拠点のポテンシャルをいかし、南部地域全体を更に活気づけるまちづくりを進めてまいります。 竹田駅周辺については、南部創造の新たな拠点として商業・業務機能などを集積し、利便性の高い良質な居住環境が充実した賑わいと活力に満ちたまちを形成します。 丹波橋・伏見桃山・桃山御陵前駅周辺については、歴史ある市街地の多様な地域資源、団地再生事業によりうまれる将来活用用地等をいかし、住環境とも調和しながら、商業・業務機能の立地を進めるなど、更なる賑わいの創出を図ってまいります。 中書島駅周辺については、大阪方面にも出やすい京阪の特急停車駅でもある交通アクセス性の高さや、数々の観光名所からも近いことなどのポテンシャルを更にいかすため、商業・業務機能の充実などによって駅周辺の魅力向上を図ってまいります。 淀駅周辺については、競馬場をはじめとする娯楽・レクリエーション機能、大阪方面への交通利便性をいかし、商業機能を充実させ、住環境とも調和しながら、新たな形のオフィスの立地を進めるなど、更なる活気あふれるまちを目指します。
「誰もがいきいきと暮らせる、多文化・多世代共生のまち」に関すること (p. 26)	8	
非常に多くの高層市営住宅があるものの、今後の人口減少社会においてはこれらの維持・活用を考えることは非常に重要。狭いエリアに生活利便施設が多くあるので、多様な都市機能の誘導を是非図ってもらいたい。 など		多様な生活利便施設が立地するとともに、交通利便性も高い住宅街です。公営住宅などの既存施設を適切に維持・活用するとともに、多様な都市機能の誘導を図ることで持続可能な多文化・多世代共生のまちづくりを進めてまいります。
「働くと暮らすを豊かに楽しむ住みよいまち」に関すること (p. 26)	3	
久我・羽束師東部エリアには、最寄りの鉄道駅はなく、日常生活に必要な物資を買おうにも、自家用車が無ければ歩くしかない地域である。 など		鉄道駅から離れてはいますが、らくなん進都など、今後更なる産業集積が期待される「働く場」と近接した住宅エリアです。小さな子どもを伴う世帯層など、日用品の買い出しや行楽等に自動車の利用を求める若年・子育て世帯の住まいのニーズを受け止めることができるまちづくりを進めてまいります。

＜西部方面＞（１１６件）

皆様の主な御意見（要旨）	件数	御意見に対する本市の考え方
「住む人、訪れる人が共に過ごしやすい回遊性のあるまち」に関すること（p. 28）	17	
- 閑静な住宅街が広がる一方で食品や日用品等の購入のための店舗が少ないという現状は正しいと思う。一方で、店ができるだけではこの地域において、過ごしやすい街、安心安全な街にはならないと思う。 - 国内外から多くの観光客が訪れる京都を代表する観光地だが、その一方で住環境の整備よりも観光地としての整備が優先されているように感じる。 など		国内外の観光客で大いに賑わうスポットもあれば、落ち着いた住宅街が広がるところもあるなど、異なる顔を持つエリアであり、渡月橋の北側においては来訪者の集中、南側においては住環境とのバランスの取れた賑わいの創出がそれぞれ課題です。住環境と調和しながら、回遊性を高めエリア一帯の賑わいの分散を図ることなどにより、住む人、訪れる人の双方にとって満足度の高いまちづくりを進めてまいります。
「ものづくりと調和し、生活利便が整った住みよいまち」に関すること（p. 28）	4	
- 西院駅周辺は、京都で数少ない若者のカルチャー・遊びのスポットを目指してほしい。 - 西院エリアについて、高さ規制を守ってほしい。 - 西大路駅周辺は、大企業の産業集積にもっと光を当ててほしい。 など		ものづくりに関係する企業のオフィスや生産拠点などが多いエリアですが、最近ではマンションの立地事例も多くなっているエリアです。生産拠点の操業環境の保全・向上と併せて、未来を支える若い世代の市内居住のニーズを受け止め、ものづくりと調和した、生活利便が整った居住環境の創出と、環境負荷にも配慮した職住近接のサステイナブルなまちを目指します。
「多様な働き方とゆとりある子育てを実現できるまち」に関すること（p. 29）	51	
- 桂駅周辺、桂川・洛西口周辺、洛西バスターミナル周辺について、計画のとおり、若年・子育て世帯を引き付ける魅力的な居住環境の創出を進めてほしい。 - 桂駅周辺では「ゆとりある住環境と調和」とあるが、東側で特にゆとりある空間づくりを目指してもらいたい。 - 洛西SAIKOプロジェクトでは、洛西地域に新たな住民や機能呼び込むとされている。この点を都市計画の観点から強力にバックアップするべきではないか。 - 洛西地域での自動運転バス実証実験に強く賛同し、早期の社会実装に強く期待する。 など		高度経済成長期以降に急速に市街化が進んだ、市内でも比較的新しく形成されたまちが多いエリアです。整った都市基盤や交通利便性をいかし、市内のみならず他都市で働く若年・子育て世帯を惹きつける魅力的な居住環境を創出してまいります。 洛西バスターミナル周辺については、洛西“SAIKO”プロジェクトにおける取組等と連携しながら、ニュータウン全体の再生を進めてまいります。

「学生や働く人など多様な人が行き交い、集うまち」に関すること (p. 30)	9	
・ 円町駅周辺について、「更なる賑わいの創出を目指す」とあるが、その賑わいが子育て世帯にとっても居心地のよいものになるよう、ファミリーフレンドリーな飲食・カフェ施設の誘致を方針に盛り込んでほしい。 ・ 太秦天神川駅周辺について、駅北側で現在解体中の工場の跡地を右京区の防災拠点としてほしい。 など		駅又は主要なバス路線がある交通結節点周辺として、近隣住民、学生、事業関係者など多様な人々が往来しており、それぞれの人の利便性向上に寄与する各種施設も立地しているエリアです。高い交通利便性をいかし、周辺の人々を惹きつける多様な都市機能を集積し、更なる賑わいを創出してまいります。
「豊かな地域資源と暮らしやすさが共存するまち」に関すること (p. 30)	7	
・ 梅津、太秦天神川駅周辺エリアは、スーパー、ドラッグストア、バス、電車もあり利便性も良い環境だと思うが、子どもが楽しく低料金で日常的にも利用しやすい場所があればよいと思う。 ・ 「スプロール市街地が形成されており、道路が狭く狭小な敷地が多いなどの課題がある」としているが、スプロール市街地と認定されるなら、少しでも改善されるような計画を策定して欲しい。 など		長い歴史を有する古社等がたたずみ、静かな住宅地が広がるエリアです。また四条通周辺においては、企業の製造拠点等が集積しており、多くの人々が働いています。一方で、いわゆるスプロール市街地が形成されており、道路が狭く狭小な敷地が多いなどの課題があります。コンパクトサイズであっても一戸建てを求めたい、市内で働く若年・子育て世帯などが暮らしやすいまちづくりを進めてまいります。
「スポーツ・医療・健康科学などが融合したウェルビーイングなまち」に関すること (p. 31)	3	
・ 西京極総合運動公園の機能を高め、賑わいを生むことが最も重要。プロ野球の試合の誘致やアリーナ等の開発をすべき。 ・ 西京極駅周辺は公園、大学と特徴は多いのに、まちづくりの方針が「魅力的なまち」と曖昧。 など		スポーツ、医療、健康科学などに関係する施設、企業等が所在するエリアです。これらの施設等と地域の人々が相互に関わり合うことで、心豊かな社会が実現したウェルビーイングなまちづくりを目指してまいります。 西京極駅周辺については、スポーツと関わりが深い方だけでなく、多様な世代、多彩な人たちに十分に活用され、健康的で活発な交流を促進する公園を核とした魅力的なまちづくりを進めてまいります。 五条通周辺については、周辺の大学等との連携も視野に入れながら、関連する分野のオフィス・ラボの軸の形成を目指してまいります。

「新しい産業が生まれ、成長するまち」に関すること (p. 31)	5	
桂駅～桂イノベーションパークエリアは、学研都市である「つくば」のようなまちになる可能性を秘めていると思う。 など		未来に向けた様々な研究や事業が展開されているエリアである一方、スタートアップ・ベンチャー企業が入居する公的インキュベーション施設は高い入居率で推移しており、更なる活動の場が求められているエリアです。今後ますます高まることが期待されるスタートアップ・ベンチャー企業のニーズを受け止め、桂イノベーションパーク周辺において、働きやすい都市環境の向上を図るとともに、この地で生まれた先端産業を更に発展させるため、桂駅までの幹線道路を中心にオフィスの立地を促進してまいります。
「地域特性をいかした産業を軸に、愛着を持って住み続けられるまち」に関すること (p. 31)	20	
- 他都市からのアクセスの良さが利点としてあるので、市内だけでない利用を踏まえた計画を立てると良いのではないかな。 - 京都市の観光客分散化に一役買える地域であると思っている。しかし、この地域の産業振興や既存集落の住環境、生活環境の充実を目指すには道路整備が必要であり、南北に通ずる基幹道路、都市計画道路沓掛上羽線（第二工区）の早期建設を強く望む。 など		市内でも農業の盛んなエリアで、四季折々の特産品があります。都市部からほど近い一方で豊かな自然と農ある暮らしがある「トカイナカ」としての魅力を大切に、既存集落の住環境や生活環境を更に充実させ、良好な交通アクセス等地理的特性をいかした産業などの振興により、定住・移住を促進し、市域全体の潤いと豊かさにつなげてまいります。 沓掛上羽線については、令和7年度に行われた都市計画道路網の見直しにおいて、廃止候補としています。現在整備中の中山石見線の完成後の交通状況等を見定めるため、廃止手続を保留しております。

⑤ 「第4章 実現方策」について（78件）

皆様の主な御意見（要旨）	件数	御意見に対する本市の考え方
「戦略的な都市づくりの進め方」に関する こと（p. 32）	66	
・ 住民・事業者・行政がそれぞれ合理的に利益を得られる「win-win」の関係を構築し、協力した者が適切に報われる仕組みを設計することが不可欠。 ・ 京都を良くしたいと考える市民が、継続的に意見を述べ、計画に関与できる仕組みが重要である。 ・ 行政だけの財力では限界がある。民間資力や国からの補助を積極的に取り入れていくことも必要。 ・ 行政が細かく管理できる時代ではないと思う。市民が自由にできるよう、極力細かいルールを作るのはやめてほしい。 ・ 厳しい財政状況などから、民間の投資を呼び込む規制緩和やインセンティブ付与などの都市計画上の工夫を強く求める。 ・ 「都市計画の柔軟な見直しと活用」は、具体的にどのように活用していくのかがかなり抽象的に書かれており、これを根拠に施策見直しを図る上で位置付けが弱いと映る。 ・ 小学校跡地は民間に貸してお金にするべき。 ・ 図書館や子どもの遊び場など、魅力的な公共空間の創出を積極的に進め、市内への移住促進につなげてほしい。 ・ 公共施設の再編や跡地活用を進めることは重要だが、その前提として、市有地の維持管理体制をどのように確保していくのかも重要な課題である。 など		本プランに掲げる将来像の実現に向けては、まず、京都の特性の一つである、地域コミュニティを単位としたまちづくりへの支援をはじめ、各地域の自主的なまちづくりが継続的に展開されるよう、仕組みづくりを推進し、市民・事業者・行政の協働によるまちづくりを進めてまいります。 また、都市づくりの実現性を高めるために、土地利用の動向や都市施設の整備状況、社会経済動向の変化等を踏まえて、必要性や実現性、効率性を十分に検討の上、適時適切に都市計画手法等の活用を図ってまいります。 大規模な活用可能地や低未利用地については、京都の活力の維持・向上を進める上で貴重な財産として、計画的・戦略的な土地利用を進めてまいります。 学校や図書館、区役所、公園や広場といった公共空間は、広く地域にひらくよう取り組むとともに、その地域の特性に応じて、地域のまちづくりに大いに寄与する魅力的なものとなるよう積極的に活用を図ってまいります。 公共施設については、社会構造の変化等を踏まえて施設の持続可能性を検討し、時代に合った都市機能の見直しを進めつつ、まちの活性化や地域の需要等を踏まえたより戦略的な活用を重視した取組を推進します。また、老朽化対策を着実に実施し、安全性や機能性の維持・向上を図るため、施設ごとの改修計画の策定・更新を進めてまいります。
「地域まちづくり構想」に関する こと（p. 32）	4	
・ 地域発意の将来像を積極的に支援していくことは良いと思う。 ・ 地域まちづくり構想は重要なものだが、現実には地域や担い手の高齢化、地域で対応できない観光や外国資本流入等のグローバル事象への対応、予算的な制約など、策定プロセスには多々課題がある。そうした課題に対する展望や支援のための新たなメニューを検討の上、どう促進するかを位置付けられたい。 など		多様な主体により検討した、地域の「将来像」と「まちづくりの方針」を本プランの地域まちづくり構想として策定し、地区計画などの都市計画手法の活用により積極的に支援することで、将来像の早期実現に向けたまちづくりを推進します。 検討段階においても、行政情報の提供やまちづくりの進め方のアドバイスなど、必要な支援を行うことで、多様な主体による個性豊かで魅力的なまちづくりが円滑に進められるよう取り組んでまいります。

「立地適正化計画の活用」に関すること (p. 32)	8	
・ 居住誘導区域の住環境整備をもっと推進して、若者世代が住みやすい、京都で住みたいと思えるようなまちづくりを、行政サービス面も含めて充実させてほしい。 ・ 統合された立地適正化計画への言及が少ないのではないかな。 ・ ハザードマップがどこで見られるかを分かるようにした方がよい。 など		本市では、都市特性を踏まえ、産業の活性化や働く場の確保、都市環境の向上等を目指す手法として、都市再生特別措置法に基づく立地適正化計画制度を活用しています。 今回、これまで「京都市持続可能な都市構築プラン」において位置付けていた立地適正化計画を本プランに継承する形としております。引き続き、まちづくりに関わる様々な関係分野の計画、施策と連携しながら、持続可能な都市の構築と、地域の将来像の実現に向けた土地利用の誘導を図ってまいります。 また、本編にハザードマップ等に関する情報を掲載します。

⑥ その他（８９件）

皆様の主な御意見（要旨）	件数	御意見に対する本市の考え方
【周知方法について】 ・ このような活動をしているというPRがまだまだ少ないように思う。 ・ 市民意見募集の冊子は、回覧ではなく各家庭に配布した方がよい。 ・ 回覧物の文章が長過ぎる。要点を箇条書きにする等の工夫をして、全体で数ページにまとめたものにしなければ、意見募集が形骸化したものになるだろう。 【統計情報等】 ・ 統計データなどが区単位となっているが、もっと細かい単位で考えていく必要があるのではないかな。 【その他の御意見】 ・ 計画が多い。連携とは書いてあるが、重複感がある。市民からしても全体を俯瞰しづらいし、職員の負担も多いように思う。法律に別で作ることが規定されていない限り統合できるはず。 など	89	【周知方法について】 本プランのパブリックコメントについては、市民しんぶん全市版（令和８年５月１日号）への関連特集の掲載、市民しんぶん同時配送による各戸回覧を実施したほか、市役所案内所、情報公開コーナー、各区役所・支所、市立図書館等での配布、ホームページ、各種SNSでの発信等、様々な手法で周知を行い、多様な御意見をいただけたと考えております。 【統計情報等】 本プランは、本市の各エリアの現状等について区単位よりも詳細な調査、分析を行い、それらを基に都市計画マスタープラン部会において議論を重ねた上で、作成いたしました。部会資料は紙面の都合で本プランに掲載しておりませんが、本市ホームページから御覧いただけます。 https://www.city.kyoto.lg.jp/tokei/page/0000343856.html 【その他の御意見】 いただいた御意見は、関係部署とも共有の上、今後のまちづくりの参考とさせていただきます。